

スキューバ容器の取扱いについて

スキューバ容器及びバルブは、高圧ガス保安法、容器安全規則の基準により製造されています。スキューバ容器内は高圧に圧縮された空気が充填されており、安全の為に、正しく取り扱われなくてはなりません。劣化しているタンクは破裂等のリスクがあり、ダイバーの生命に関わる事故につながる可能性があります。また、サビ等で内部が腐食しているタンクで呼吸をした場合には、健康上の問題も懸念されます。

ご使用前には**以下の7項目**を必ずチェックし、該当する容器のご使用はお止めください。

危険なタンク チェック7項目



- ① タンク外側がサビていないか
- ② タンク外側のタンクブーツ接触部が帯状に錆びていないか
- ③ タンクの外側に大きなキズやへこみがないか
- ④ タンクの検査期限が切れていないか
- ⑤ アルミタンクについては毎年のネジ部目視検査がなされているか
- ⑥ バルブのハンドルが軽く回り、不自然な動きをしないか
- ⑦ バルブのOリングに劣化や変形がないか



① タンク外側がサビていないか

② タンク外側のタンクブーツ接触部が帯状に錆びていないか




⑥ バルブのハンドルが軽く回り、不自然な動きをしないか

⑦ バルブのOリングに劣化や変形がないか

④ タンクの検査期限が切れていないか

【検査期限の確認のしかた】

例)  写真のタンクは2013年の3月に合格しています。5年後の2018年2月まで使用可能です

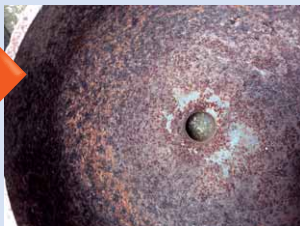
タンク内側は見えませんが、劣化するとこんなに危険です

1 スチールタンク内側のサビ(ひどい例)

現物カットサンプル



拡大



2 アルミタンクネジ部のクラック発生 (毎年の目視検査[法定]が重要です)

タンク内側のクラック



拡大



タンクについての詳細は、下記ダイビング高圧ガス安全協会のホームページにてご確認ください。
http://diving-gas.org/reference/1502well-known_example.pdf